

泉区古道散策マップ

泉区生涯学級古道調査研究会編

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 鎌倉道に沿って（南側） | ・・・下飯田・下和泉方面 |
| 2. 鎌倉道に沿って（北側） | ・・・上飯田・日向山方面 |
| 3. 柏尾通り大山道に沿って | ・・・和泉中央部・岡津・緑園方面 |
| 4. 戸塚・厚木道に沿って | ・・・長後街道・中田北・葛野方面 |

このマップはホームページ公開用にレイアウトし直したものです。
データの大きさを押さえて作成されているため実際の使用にはあまり適していません。
実際のご使用には泉区役所で配布されているものをお使いください。

鎌倉道（南側）に沿って...下飯田・下和泉方面

下飯田・下和泉方面には南北に鎌倉道（上の道）が通り抜け、上飯田との境には東西に大山道が走っている。鎌倉道や大山道沿いに古くから開けた地域である。明治中期から昭和初期にかけて養蚕業、製糸業が栄え、戦後は都市の近郊農村として野菜作りが盛んで都市へ出荷し、昭和40年代に入り、住宅や工場が進出し人口も急増し農業も変化している。

中和田公園 和泉町3496付近

かつて招魂社と呼ばれ、大きな「忠魂碑」が立っているほか、泉区のかつての名士たちの顕彰碑が立ち並んでいる。

かさもり稲荷 上飯田町1094

医薬が現在ほど進んでいなかった時代、瘡（性病やおでき）から身を守るために信仰された。瘡守、笠森などとも書く。

三柱神社 上飯田町840

大正元年、菅原道真を祀った天神社、大山咋命を祀った日枝社、豊受気媛を祀った神明社の3社が合併したものの。

持田角左衛門墓 上飯田町391

持田角左衛門は当地方の製糸業のパイオニアである。明治32年、アメリカの先進技術を学んで帰国、「盛進社会資会社」を設立したが、明治34年、志なかばにして60歳でこの世を去ったため、長男の初治郎がその跡を継いだ。持田製糸工場は現在の上飯田農協の近くと長後とにあった。

宮崎製糸場跡 上飯田町112

オートキャリー(株)のある場所は、かつての宮崎製糸場の跡。宮崎勘右衛門・同長男芳松は持田製糸場に続いて製糸業に乗り出し、大正12年には女工330名を擁する大工場に発展させたが、その後、幾多の変遷を経て、現在はオートキャリー(株)本社営業所となっている。宮崎氏住居の長屋門はいまも周囲を圧している。

日枝神社 下飯田町1751

日枝神社は、今は目立たない存在になっているが、かつてはお祭りも盛大に行われていたようだ。この付近の旧道は鎌倉街道の風情を最もよく残している。

美濃口家 下飯田町1744（付、美濃口春鴻の墓）旧道に沿って大きな長屋門のある家が、江戸期以来の名主、明治になってからも村長を出し続けた美濃口家である。

春鴻は享保18年（1733）美濃口家に生まれた人で、江戸期の相模を代表する俳人といつてよい。墓は近くの新道沿いにある。

下飯田左馬神社 下飯田町1389

「相模七サバ」の1つといわれている。境内や鳥居付近に庚申塔、堅牢地神塔、馬頭観音、不動明王など、いろいろな石仏群が、豊かな相模の「野の仏」を見せている。

富士塚城址 下飯田町1016

現在、鎌倉街道に面して「富士塚城址」の石碑の立った公園があり、源頼朝の危急を救った恩人としての飯田家義の故事を伝えている。しかし、実際の家義の館は現在の富士塚団地の中にあつたらしい。明治32年、家義の墳墓の跡らしいものを掘り当てた人があり、近くの共同墓地内に「古賢大菩薩」の石塔が建てられた。

東泉寺には、家義の供養塔のほか、このとき出土したと伝えられる五輪塔などがある。

東泉寺・琴平神社 下飯田町743

東泉寺は、相模八十八箇所の札所で、鎌倉竜宝寺の末寺。寺の境内には飯田家義の守り本尊であったという薬師を祀る薬師堂がある。また隣の琴平神社との間や山門脇には、鎌倉道・大山道の道標をはじめ、石仏群が祀られている。

琴平神社は、江戸時代のこの地区の領主（旗本）であった寛氏が、境川の水防を願って勧請したものの。

天王森泉公園（清水製糸工場跡） 和泉町298

天王森泉公園の中心になっているのが、かつての「清水製糸工場」の建物である。同工場は大震災などで廃業したが、建物自体は近くの人に買い取られて、住居として現存していた。公園が計画される際、持ち主から市に譲り渡された。

下和泉鯖神社 和泉町705

慶長年間、当地の清水・鈴木両氏が氏神として勧請したもののという。相模七サバのひとつ。

密蔵院 和泉町727

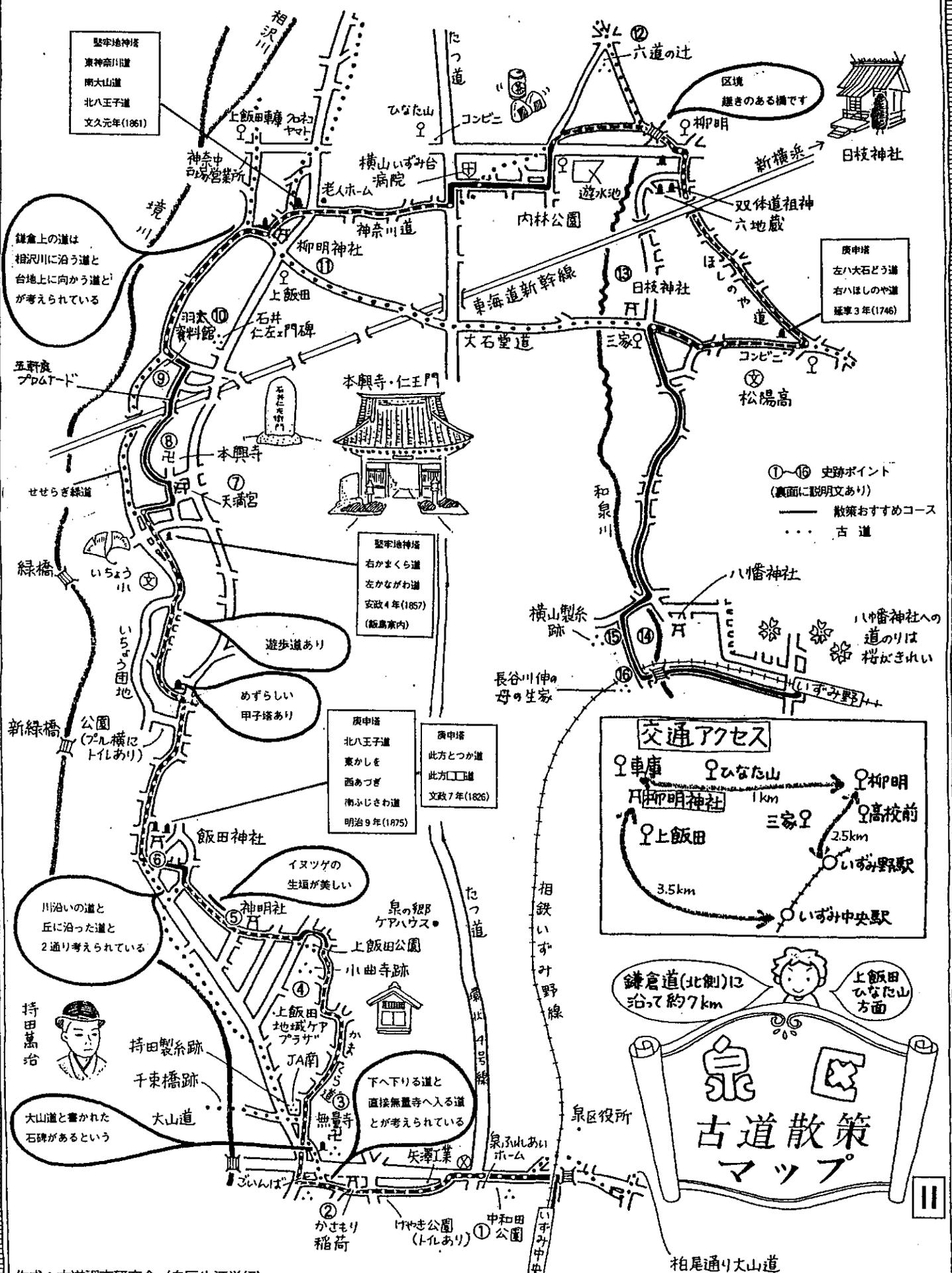
真言宗の古い寺。この寺は、旧和泉村内の神社や石仏、それに出羽三山講の先達としてその名を刻まれているから、かつては和泉村の民間信仰の中心役を務めていたらしい。境内には貞和3年（1347）の銘のある板碑があるほか、門前には木食観正碑（南無大師遍照金剛）がある。

第六天神社 和泉町785

第六天社という名前の神社はかつて無数にあつたが、今は数えるほどしか残っていない。神社の裏の池は親孝行の子供のために、親に持ち帰る酒が湧く池だったが、あるとき、村人に見つかり、ただの水になってしまったという伝説を持っている。

宝心寺 和泉町3193

江戸時代の和泉村の領主で旗本だった松平氏（能見松平という）の菩提寺。墓地の一角には松平氏の代々の墓が並び、土地の人々は「殿墓」と呼んでいる。



聖牟地神塚
東神奈川道
南大山道
北八王子道
文久元年(1861)

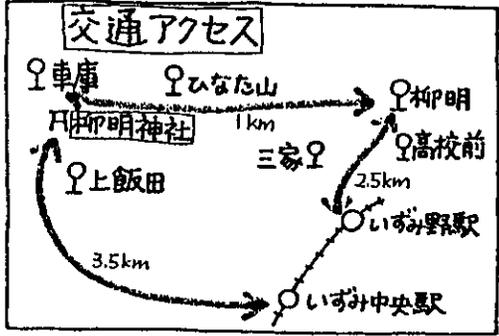
庚申塔
左ハ大石どう道
右ハほしのや道
延享3年(1746)

聖牟地神塚
右かまくら道
左かながわ道
安政4年(1857)
(飯島案内)

庚申塔
北八王子道
東かしを
西あづぎ
南ふじさわ道
明治9年(1875)

庚申塔
此方とつか道
此方□□道
文政7年(1826)

①~⑯ 史跡ポイント
(裏面に説明文あり)
— 散策おすすめコース
... 古道



鎌倉道(北側)に沿って約7km

上飯田
ひなた山
方面

泉区 古道散策 マップ

柏尾通り大山道

鎌倉道（北側）に沿って...上飯田・日向山方面

上飯田・日向山には南北に鎌倉道、大山道が走っているほか、坂東観音札所巡りの人たちのための「ほしのや道」、鎌倉郡観音札所巡りの人たちのための「大石堂道」があり、更には近世産業の発展に伴う神奈川道なども観察できる。下飯田・下和泉地区同様、明治中期から昭和初期にかけて養蚕業、製糸業、養豚業などが栄え、戦後は都市の近郊農村として野菜作りが盛んで都市へ出荷している。昭和40年代にはいり、住宅や工場が進出し人口も急増し農業も変化している。

中和田公園(各碑) 和泉町3496付近

忠魂碑 陸軍大将乃木希典筆 再建碑は山田豊次郎筆。
石井広助之碑 乃木希典筆 父は神奈川県会議長。山田専成頌徳碑 海軍大将伯爵 樺山資紀筆。山田豊次郎顕彰碑 神奈川県知事内山岩太郎筆。持田初治郎君頌徳の碑 清浦圭吾筆。

かさもり稲荷 上飯田町1094

古道マップ() 下飯田・下和泉の部参照

無量寺 上飯田町1112

浄土宗。境内に名木古木指定の大きなイチョウ、板碑、六地藏、畜霊塔、念仏塔などがある。念仏塔の台座は「大山道」を示し、かつてあった道者の墓は房総の住所を示すなど、大山道との関連が深い。

小曲寺跡 上飯田団地バス停「児童公園」傍。

かつての小曲家(近所の旧家)一族の菩提寺。

神明社 上飯田町1862

祭神・天照皇大神。上飯田団地の造成のさい、現在地に移転。神社横の渡井幹雄氏邸のイヌツゲは名木古木指定。

飯田神社 上飯田町2517

かつてのサバ神社の1つ。名木古木ヤブツバキ。鳥居付近に庚申塔、道祖神、地藏、観音など多数の石仏がある。境内からは縄文中期の注口土器が出土。

中屋敷天満宮 上飯田町3629

祭神・菅原道真。

天満宮下の持田ストアー前に道祖神、二十三夜塔がある。

本興寺 上飯田町3624

かつて鎌倉にあったが、江戸幕府の日蓮宗弾圧を避けてここに移転。仁王門や本堂の釈迦・日蓮・日什の一代記を描く彫刻が有名。名木古木イトヒバ。境内に題目塔がある。

羽太資料館 上飯田町3590

鎌倉街道、近隣の民俗資料など多数を展示。集会にも使える。現館長羽太俊一氏が私財を投じて開設。

近くの地名、五軒庭には徳川綱吉の生類哀れみの令による弾圧を受けた羽太一族の悲しい歴史が秘められている。

石井仁左衛門翁の碑 上飯田町4129

柳明の人。上飯田村戸長、中和田村村長、神奈川県会議員、同議長などを務め、明治23年鎌倉倶楽部を結成。

柳明神社 上飯田町4579

もとは「大石寺」というお寺。鎌倉郡観音24番札所として巡礼の対象であった。明治初年に廃寺。

現在の神社はその跡に日向山にあった「お伊勢宮」をここに移転したもの。境内には、六地藏、庚申塔、従軍碑など。神社の北側に地神塔(神奈川道・大山道の道標)、西側の道路沿いに道祖神2基がある。

六道の辻 瀬谷区宮沢町

台地の畑の真ん中に6本の野道が集まる珍しい景観の地。無人の地だったものを領主が住民を移動させて開拓した旨の説明板が立っている。六道とは、仏教の言葉で、人は皆善悪の業によって6つの迷界(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上)におもむき、住むといわれる。

日枝神社 和泉町7445

祭神・伊弉諾尊・伊弉冉尊・大山咋命。境内に地神塔や御岳社の祠などがある。

この付近の集落を三家(さんや)という。昔は石井・石川・横山の3軒しかなかったというのが語源だと...。近くの新幹線ガード先に六地藏、道祖神、庚申塔など、バス停柳明付近には破損の進んだ庚申塔が立っている。

八幡神社 和泉町6287

祭神・応神天皇。元龜年間(1570~73)に汲沢の郷士・森織部義秀によって創建されたと伝えられることから、「織部八幡」と通称される。最近、不審火にあって建て直された。神社裏の路上に地藏、庚申塔がある。

横山製糸跡 和泉町6414

織部八幡から和泉川の宮西橋を越えて西に出た主水分(もんとぶん)には横山姓の数軒の旧家がある。そのうちの1軒が、かつて旧泉区領域に多かった製糸業の1軒、横山製糸であった家。

長谷川伸の母の生家 和泉町6441

横山信夫氏邸は、「臉の母」で知られる長谷川伸の母親の実家。長谷川伸は当時、事情があって母親とは別れ別れになっていた。昭和8年、三谷家に嫁いでいた臉の母と47年ぶりに再会、当時の新聞は小説以上に奇遇であると大々的に報道した。長谷川伸自身も母親の死後、和泉町の母親の生家を訪れたことがある。

柏尾通り大山道に沿って...和泉中央部、岡津・緑園方面

現在の瀬谷柏尾道路、計画中の権太坂和泉線沿いのルートは、江戸時代の柏尾通り大山道として有名であった。この道は、丘陵部にさえぎられていた現在の長後街道に代わって下飯田や名瀬、岡津、二俣川などの地方から、戸塚宿に至る産業道路を形成していた。この地区にはまた巡礼道としての「ほしのや道」、八王子との交通のための「八王子道」もあった。

この地方も明治中期から昭和初期にかけて養蚕、製糸、野菜作り等が盛んで、今も農村としての姿を色濃く残している。

普光寺・天神社 岡津町 9 4

長祿3年(1459)と考えられる聖観音が本尊。平成3年に落慶した本堂に、弁天池や、歓喜天堂、四国八十八箇所の砂踏み霊場など、何かと賑やかな寺である。

寺の入り口には、天神社があり、原田由右衛門の門人たちが建立した「筆塚」がある。

三嶋神社 岡津町 2 3 5 2

岡津の三嶋神社のあたりは江戸初期、代官頭の彦坂小刑部元正の屋敷があったといわれている。彼は三目代などと呼ばれ、江戸幕府の諸制度や街道の整備、鉱山の開発に敏腕を發揮した人。三嶋神社はその守護神か。

西林寺 岡津町 1 4 3 2

3世称念は捨世派の鼻祖。境内には原田由右衛門の碑や筆子塚、道標を兼ねた出羽三山供養塔などがある。

向導寺 岡津町 2 1 1 4

本尊の阿弥陀如来は平安中期の定朝ふうの作風。隣の岡の上に不動堂があり、かつて大山参詣の人でにぎわったものと見られる。不動堂の隣には琴平神社のお堂がある。

富士塚 岡津町 同上

不動堂の後には泉区界限で最も形の整った富士塚がある。タテカワ講の講紋と「お身抜き」、ゑぼし岩・食行身祿の石碑、法華石経塔など、珍しいものがたくさんある。

永明寺 岡津町 1 6 1 6

永明寺別院の門の前に、不動明王像を上に乗せた大きな大山道道標や、出羽三山供養塔がある。

この寺から先は「西田の谷戸」と呼ばれた典型的な谷戸田であった。その途中に双体道祖神塔、地神塔があり、地神塔の台座には「下りかしを道・上り大山道」とある。

中川地区センター 岡津町 1 9 9 3 - 1

かつてのこの付近の大山道の尾根にあった石仏などが、中川地区センターの中庭に置かれている。

もとの大山道は現在の魚貝亭付近で女道、男道に分かれ、女道はいなげやの前を大きく半円形に回りながら、国際親善病院の西側に向かっていった。現在、サトームセンの隣のマンション玄関前に大山道の道標がある。

男道はこの分岐点付近から西にほぼ直進し、国際親善病院の土留めになっている崖を登ったものと見られる。

むじな塚 西が岡 1 丁目 3 2

古道が丘陵部に駆け上がる先の畑の中に「むじな塚」と呼ばれる塚があり、墳丘上に宝篋印塔が立っている。

男道は「むじな塚」のすぐ南に廃道となって残存している。女道はその先で合流する。

横山家・中丸家長屋門 新橋町 999・新橋町 1290

弥生台の駅から東北に向かって歩くと、小川アメニティの先の好ましい竹林の緑の中に堂々たる構えの横山家の長屋門がある。

長屋門の先は、順礼の親子の哀話を伝える順礼坂である。

順礼坂を下って阿久和川に出ると、川に面して、中丸家の長屋門が見られる。冠木門という珍しい形式。

観音寺 新橋町 1 1 5 7

鎌倉二十三番札所。領主安藤氏の守り本尊の聖観音は、寺伝では行基作と伝えられる古いもの。

比較的最近、再整備されたが、領主の菩提寺らしい風格。

神明社 新橋町 1 3 7 7

観音寺の前で県道を横切り、阿久和川を渡ると神明社がある。付近の地名・神明谷のもととなった神社。周囲3.25メートルのヒノキは名木古木に指定されている。

横根稻荷 和泉町 5 9 6 3

桜の美しい神社。本殿の脇に最近発掘された「感念井戸」があり、和田義盛の愛妾巴御前が信濃に落ちていく途中で使った井戸と伝承されている。

神社の前は「豊かな大地」の碑が立つ雄大な風景の地。かつて、ここでは「ぐるまの競馬」と呼ばれる農耕馬の競走が盛んに行われた。鳥居脇にはその記憶を残して、多数の馬頭観音の碑がある。

神明社・蚕霊供養塔 和泉町 3 5 9 5

泉小次郎館の鬼門よけと伝えられるこの神明社の脇には、冷害によって全滅した蚕の霊を慰める供養塔が立っている。その碑の側面に指印つきで大山道を示す道標を兼用しているほか、もう1基の道標もある。

かさもり稻荷 上飯田町 1 0 9 5

古道マップ()下飯田・下和泉の部参照

無量寺 上飯田町 1 0 9 7

古道マップ()上飯田・日向山方面の部参照

戸塚・厚木道に沿って...長後街道、中田北、葛野方面

この地区は現在、長後街道や横浜市営地下鉄が通り抜け、泉区の中で最も賑やかな地域であるが、実は長後街道は明治中期に開発された街道であった。しかしそれまでも、細々ながら厚木へ向かう道があった。それは街道の名に値しない里道のつぎはぎではあったが、戸塚宿の居住者の一部は柏尾通りでなく、こちらをも大山道として利用したようである。こうしたいわば二級大山道はそのほかにも数多くあったようだ。ここにその一部を列挙してみよう。

○**谷矢部道** いわゆる「やとやべ」の矢部小学校のところから、中田・白百合方向への道と、踊場への道とを分岐する。分岐点に大山道の道標がある。

○**郷境道** 上記の白百合公園付近から横根稲荷方向への道で、旧中田村と旧岡津村との郷境をなしていたことからこう呼ばれたものだが、八王子方向への道として利用されていたらしい。

○**小田原道（岡津道）** 岡津の三嶋神社（小田原北条時代にはここに太田大膳亮なる武士が住んでいた）から、踊場、汲沢を通り抜けて、深谷の専念寺（注、ここにも三嶋神社）前を通り、小田原の本城に向かっていたと想定されている。

○**葛野コース** 踊場から西進し、東明住宅内を通過、葛野小学校前を通り、通称「かまくらみち」の県道に出、下和泉の古い集落の中を通り抜け、台谷戸・和泉高校・中和泉左馬神社などを通して、上飯田の仲通り集落の中へと導かれている。

○**三ツ俣コース** 中田の中央部、石巻康敬の墓地あたりから、建設中の野球場の南を西進して、通称「かまくらみち」県道の三ツ俣信号を通過、和泉町中央部付近を横断、旧大山道の本道に「壊れた出羽三山塔」の所で合流する。

長福寺・須賀神社 和泉町 3 6 6 2

長福寺は泉小次郎創建の道場であると伝えられている。須賀神社はその守護神。泉小次郎は北条幕府打倒の旗を挙げた武人で和泉に住んでいたと伝えられる。

泉小次郎伝承地 同上

長福寺の裏手の丘（和泉中央公園）が、泉小次郎の館跡と伝えられた場所。よく見ると、土塁の跡が...。森の中の池は「小次郎馬洗い池」と称されてきた。

神明社 和泉町 3 5 9 5

境内のはずれに蚕霊供養塔がある。幕末期に降霜のため蚕が全滅したという事件を伝えていて、大喉の渴きを覚えてこの地の人家の井戸で一杯の冷水を所望、うまそうに飲んだという。人、名づけて「マッカーサー井戸」という。

桑原部隊本部跡 中田南 4 - 4

太平洋戦争が逼迫した昭和19年、旧海軍が今の中田小学校の地に桑原部隊という工作部隊の本部を配置した。当時、しらゆり公園、白百合団地なども同部隊の管理地であった。

中田信用組合跡 中田北 2 - 1 2

奥津喬次郎氏は中田の恩人。当時、中田は痩せ地で農家経営は疲弊の極にあったが、氏は中田信用組合を創立、中田寺の住職香川法隆上人と力を併せて難局を切り開き、模範村の名を高めた。JA中田支所の前に顕彰碑が立っている。

中田寺 中田北 2 - 1 1

石巻五太夫康敬（下記参照）の開基。境内に力士・戸田川の墓石などがある。

御霊神社 中田北 3 - 4 2

旧鎌倉郡地域に多い御霊神社の1つ。祭神はどこも共通の鎌倉権五郎景正のほか、日本武尊を祀る。

鳥居脇には御嶽講の碑が立っている。

石巻五太夫墓所 中田東 4 - 5 6

石巻五太夫康敬は小田原北条氏の重臣であった。秀吉による小田原攻めの直前、城主の代理として弁明に赴くが許されず投獄される。のち、家康はこれを許し、中田村に蟄居させた。家康が江戸に入府する際、五太夫橋のもとで家康に再会、中田村を知行地として認められた。中田寺の近くに墓地がある。

小島資料館 中田東 2 丁目 1 4

もと教職にあられた小島貞雄氏が「中田ふれあいの樹林」の隣にあるご自宅を開放して、民俗資料などを展示している。ただし見学には事前連絡が必要。

寒念仏供養塔 中田東 1 - 1

むかし猫が躍ったという伝説がある地に「寒念仏供養塔」が立っている。実は中田寺の住職らによる寒念仏の供養塔だが、ロマンに惹かれて訪ねる人が多い。